

平成30年度シラバス

文化学園長野保育専門学校

科目名					授業の種類	授業担当者
子どもの保健 I					講義	青木由美子・増田英子
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修	
1	4	60	30	通年	卒業:選択 幼免:選択 保育士:必修	
[授業の目的・ねらい]						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の保育士や幼児教育を目指す学生が、日常の子どもの保健の実践のための基盤として、小児科学の基礎的な事、および母子関係・子どもをめぐる社会環境、現在の社会制度や施策について学ぶことを目的とする。</li> <li>・子どもの心身の発達・発育の状況を知る。</li> <li>・食生活、生活環境、養育者の接し方、発達との関連性を理解する。</li> <li>・子どもを取巻く、生活環境・社会文化の問題を理解する。</li> <li>・発育・発達の途中にある小児の特殊性を理解し、保健活動との関連性を理解する。</li> </ul>						
[授業全体の内容と概要]						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の保健の知識と母子保健の現状と母子保健行政の知識を習得する。</li> <li>・心身ともに発達過程である小児について、「代表的な疾患、重要と思われる疾患」の知識を深める。また小児の死因の第1位である事故についてその実態を知り、予防や救急処置について学ぶ。</li> <li>・テキスト中心に受講者とのディスカッションを入れながら授業を進める。</li> <li>・グループワーク:テーマに沿った討議、情報交換、討議内容の発表</li> </ul>						
[受講上の注意事項]						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答を多く持ち、自分で考える積極的姿勢を身に付ける。</li> </ul>						
[使用テキスト]				[評価基準]		
子どもの保健 (巷野悟郎 編)				試験、授業への取り組み姿勢、授業出欠席等を合わせて、総合評価を行う。		
[授業の日程と各回のテーマ・授業内容]						
回	項目		授業内容			
1	子どもの健康と保健の意義について		子どもの特徴・子どもの保健の目標・子どもの保健の実践 母子保健・地域における保健			
2	子どもの発育・発達と保健		子どもの発育・身体発達と保健・身体発達の経過 身体発達に影響する因子・身体の計測・身体発育の表現と評価			
3	生理機能の発達と保健		体温・呼吸・脈拍と血圧・感覚・栄養・排泄・睡眠・自律神経の働き			
4	運動機能の発達と保健		運動機能の発達・新生児期の運動・乳児期の運動機能 幼児期の運動機能・体力			
5	精神機能の発達と保健		言葉・情緒・社会性・精神発達の評価・精神発達におよぼす影響 豊かな心の発達			
6	子どもの食事		子どもの栄養の特徴 栄養生理 食物の摂取 栄養の摂取 授乳・離乳の支援ガイド 母乳栄養			
7	子どもの食事		人工栄養 混合栄養 災害時における乳児栄養 離乳 幼児期の栄養 学齢・少年期の栄養			
8	子どもの生活環境		総論: 保健情報 生活と健康 発達と生活習慣			
9	子どもの生活環境		各論: 食事 排泄 睡眠 入浴 衛生 衣服と布団など 室内環境			
10	子どもの生活環境		各論: 抱く・おんぶ 育児用品 遊び 外出・旅行 運動 通過儀礼			
11	子どもの精神保健		精神保健 発達への視点 子どもの心と身体			
12	子どもの精神保健		子どもの虐待			
13	環境		自然環境 住居環境			
14	保育の多様化		就学前児童の保育 放課後児童クラブ 保育における保健上の留意点 家庭の子育てと保育所保育などとの連携			
15	保育の多様化		保育における薬 感染症の取り扱い 保育環境と衛生・安全管理			

16	新生児の特徴	新生児の特徴 異常 低出生体重児 新生児の養護
17	健康と病気、異常	健康の概念 病気と異常への対応 子どもの病気の特徴 症状と看護 免疫とアレルギー 虫歯の予防
18	母子保健の現状	出生 死亡
19	母子保健行政	母子保健行政の歴史 母子保健行政の組織と現状 母子保健対策 の現状 母子保健対策 母子保健の基盤整備 児童福祉対策
20	復習とまとめ	今までの授業内容の復習及びまとめ
21	新生児および先天異常	胎児・新生児の特徴と注意すべき疾患
22	感染症その1・2	ウイルス感染症・細菌感染症その他
23	代謝と栄養の障害	身体発育の異常および各種栄養障害
24	内分泌疾患	代表的な内分泌疾患
25	免疫およびアレルギー	免疫のしくみとアレルギー疾患
26	消化器疾患	ありふれた消化器疾患と緊急処置が必要な消化器疾患
27	血液疾患	赤血球、血小板および白血球の病気
28	心疾患および腎疾患	先天性心疾患および川崎病、腎疾患
29	その他の疾患と、こどもの事故	その他の疾患、こどもの事故の実態と予防・救急処置
30	まとめ	試験